ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学

所　属　保健医療学部

名　前　小林　和彦

作成日　2025/4/24

1.　教育の責任

湘南医療大学保健医療学部における教育活動として、理学療法概論（必修）、同演習（必修）、理学療法教養基礎（必修・分担）、理学療法対象者行動論（必修）、地域理学療法学（必修）、同演習（必修）、臨床実習（必修）、理学療法卒業研究（必修）、保健医療学特論（修士課程、必修）、地域生活支援学特論（博士課程、選択）、同演習（博士課程、選択）、等を担当。高度な知識・技術、豊かな人間性を有する理学療法士を世に輩出することで、理学療法学専攻教員としての社会的責任を果たしている。そのことにより、本学学生の経済的及び社会的自立という教員としての責務と、より質の高い医療・介護サービスを地域住民提供者すべく専門職教育に携わる者としての責務を果たしているともの考えられる。また、リハビリテーション学科教授として、大学院研究科委員会、自己点検・評価委員会、卒業論文編集委員会、チーム医療論 WG メンバー等における活動は、教員ならびに学生の研究活動への支援と学術活動の向上に寄与している。これらの活動は、本学のみならず、“ふれあいグループ”全体の成長、発展にも貢献していると考えられる。また、個人的には令和 7 年 3 月をもって終了となった特別養護老人ホームを対象とした科学研究費補助金を用いた研究課題を達成することにより、学術的貢献のみならず、社会貢献および地域貢献という、よりグローバルな責務も果たしているものと考えられる。

2.　私の理念・目的

1)　私の理念

現在、私が教育に対して最も大切にしている信条は、「教育は学生の未来のためにある」ということである。いうまでもなく、人の人生は一度きり、わずか 100 年足らずの一生である。きわめて低い確率で人間として生まれてきた以上、悔いのない人生を送りたいと誰もが思うであろうことは想像に難くない。したがって、「学生自身が自らの力で自己成長を図り、夢や希望を叶えてゆくための体系化された知恵や知識の教授」こそが自身の教育理念であり、そのような考えを貫いてゆくことが、教員としての自身の特徴であると考えている。そのため、日頃の教育実践においては「人生は、与えられるものではなく、創るもの」を旗印に掲げ、医療従事者（具体的には理学療法士）として単に患者のニーズを満たすことが出来るようなマニュアル的なものではなく、それを土台として更に発展・成長していけるような知識・技術の教授を目指す。また、自己成長を前提として、自己の行動や活動を選択・実行できる人間性教育を重視する。学生には、今の自分には必要なことは何かを常に考えて自主的に学び、周囲に流されることなく、自らの意思で後悔の無い人生を送っていくことを期待する。現行の教育システム、学生評価システムが教育の本質を反映したものであるとは思えない。目の前の学生が将来伸びて行くためには何をどのように教えたらよいか、また、何をどのように評価すればよいのかを自問自答しつつ、自己の信ずる教育を実践して行くことが、己に課せられた教員としての責務であると考えている。

2) 理念をもつに至った背景

上記に示した教育理念を持つに至った背景には、自らの学習経験に端を発する人生観がある。僅か数年前に遡るが、年齢も 50 代中盤となり人生のゴールが見えてきた頃のことである。今後、何を生きがいにしてゆけば良いのか、何を目標にすれば幸せな人生を全うできるのかについて、真剣に悩んでいた時期があった。そんな時に出会ったのが“脳科学”という学問領域であった。それは偶然の出会いでは無い。リハビリテーション関係の仕事を行うなかで、対象者（多くは患者もしくは高齢者）の訓練意欲や生活意欲、モチベーションを高めるにはどのようにすればよいのか、との課題に直面するのはごく自然なことである。そして、そのようなことを学生に教育することは非常に有益であると考え、脳科学関係の書籍・文献を読み漁っていた。そのような中、脳内物質であるドーパミンの驚くべきパワーを知った。すなわち、何かを行った結果、自分にとって良いことや望ましいことが起これば、脳内においてドーパミンという物質が分泌され、快楽や幸福感が得られるという事実である。そして、快楽を得るべく、そのような行動を行い続けることが、生きがいがあり、幸福感のある人生につながっていくのではないかと考えるに至った。その後、「目標を立て、努力して達成すること、そしてそのことによる達成感や満足感、充実感などによりが多量に分泌される」ことも知り、自らそのことを実践し、効果を実感してきた。そのような自身の日常生活における実践から、徐々に、前述したような教育の理念へと発展していったものと考えている。

3. 教育の方法・戦略

概要：「学生自身が自らの力で成長を図り、夢や希望を叶えて行くための体系化された知恵や知識の教授」を自身の教育理念に据え、その理念を実践して行くことを教育方針としている。 具体的には、①すべての学生が理解し得るような教育の実践、②すべての学生が興味を持てるような教育の実践、③すべての学生が授業目標を達成し得るような教育の実践。しかしながら、以上の4項目は一般的なもので、あくまでも自身の教育方針を実践してゆくための前提条件である。すなわち、④すべての学生が自ら学び、自己成長していけるような教育の実践、まさに、このことこそが自身の目指すところの教育方針であり、教育戦略である。そして、その具現化の方策については、授業自体の工夫・改善、ゼミなどにおける個別指導、学年単位で行われるホームルームや臨床実習における訪問指導など、多岐に渡っている。また、自身の教育技術や教育方法論向上のための取り組みも必要であることから、本学校法人主催の研修会や FD 研修会、授業参観にも積極的に参加するなど、自己の教育方針を具現化すべく授業や個別指導等の在り方を模索している。

方針：すべての学生が自ら学び、自己成長できるような教育の実践。そして、その方針を具現化している方法について以下に示す。

1） 担当授業時において、理学療法の様々な領域、対象や方法論、就職場所など、就職や進路に関する選択肢をなるべく多く紹介することで、学生自身が自分に見合った方向性を選択しやすくしている。

2) 担当授業時において、理学療法士という職業のやりがいや生きがいなど、自己の人生におけるメリット、将来性、発展性などについて自らの意見を交えてポジティブな解説することで、個々の学生がより夢や希望を持てるように促し、授業への興味と意欲を高めている。

3) 学習意欲が低く、その結果として学業成績が振るわない学生に対しては、個別指導の機会において、当該学生の個人的な問題についてさまざまな視点から話し合い、自己の経験談等も交えながら、意欲を引き出す対応を行っている。

4) 担当授業時においては、さまざまな課題に応用可能な基本的な知識を教授し、応用例についてはなるべく学生自身で考えさせ、調べさせて、答えさせる。そして、その結果と過程についてなるべく承認や賞賛を与えることで、達成感と満足感が得られるような方法を取り入れている。前述したように、成功体験を多く与えるような教育の実践はドーパミンの分泌を促し、脳科学的にも理にかなった方法である。そのとき、成功体験となるような促しや助言を与えることが教員の役割として重要であると考えている。その後、学生自ら成功体験を求めて学習活動を行うようになれば、自身の教育目標はほぼ達成されたことになる。

4. 学習成果

1）学生による授業評価の年次的改善。

2） 授業資料（特に、パワーポイントを用いたプレゼンテーション資料）の作成において、図やイラストを用いるなど、内容を少しでも解りやすくするための工夫をしていることが授業内容の理解向上につながっている。

3） 声の大きさ、喋りの速さ、身振りなど、プレゼンテーション方法の工夫を常に行っていることが、授業内容の理解向上につながっている。

4） 少しでも楽しく興味を引くような身近な事例や自己の体験談などを、授業理解や気分転換のツールとして利用していることが、学生の授業時における集中力や、学修意欲向上につながっている。

5) 授業内容に関連したテレビ番組や、ネット上で公開されている動画などを授業資料として適宜視聴させることで、授業内容に対する興味や理解の向上に役立てている。

5. 改善のための努力

1） 学生同士のディスカッションなど、アクティブラーニングの手法を取り入れた授業がほとんど行えていない。

改善策：授業回数 15 回のうち 2 回分において、グループディスカッションによる課題

解決型の授業を行う。

2) 授業時間のかなりの部分において、一方的に知識を与えるような授業内容となってしまっている。

改善策:1 回 1 回の授業内容を見直し、学生に課題を行わせる時間、説明に費やす時間、質問を投げかける時間、質問に答える時間について事前に授業計画を立てる。

6. 今後の目標

1) 短期目標

長期目標実現のための短期目標を以下に示す。

① 自身の教育レベル向上のため、教育方法や FD 関連書籍 10 冊以上の読破。
具体的な達成時期:2026 年度末。

② 学生による授業評価での自由記載の内容について、授業の解かりやすさ、面白さ、学習意欲などの内容にて、ポジティブな記載の2割以上の増加。
具体的な達成時期:2026 年度末。

③ 自らの講義形式の授業すべてにおいて、寝ている学生ゼロの達成。
具体的な達成時期:2026 年度末。

2) 長期目標

自身の教育理念である、「学生自身が自らの力で自己成長を図り、夢や希望を叶えてゆくための体系化された知恵や知識の教授」の実現。

【エビデンス】

1-1. 湘南医療大学大学院博士課程設置審提出書類
1-2. 湘南医療大学保健医療学部理学療法学専攻 専攻会議議事録および添付資料
2-1. 湘南医療大学シラバス
3-1. 湘南医療大学シラバス
3-2. 学生による授業評価に対するリフレクション・ペーパー
4-1. 学生による授業評価
4-2. 授業資料
5-1. 学生による授業評価に対するリフレクション・ペーパー